



千葉県北西部地震(10月7日)と変電所火災事故(10月10日) の対応に尽力されたすべての仲間の皆さん

自然災害や想定外の事故が連日発生する中、復旧作業や旅客対応などをはじめ、安全・安定した輸送サービスを提供するため長時間にわたり勤務に携わったすべての仲間の皆さん、大変お疲れ様でした。

10月7日、千葉県北西部を震源とする地震では、2011年に発生した「東日本大震災」以来の「震度5強」の強い揺れが東京や埼玉などで観測されました。地震による遅れや運休により、7~8日にかけて新幹線や在来線16路線で約36万8千人に影響が出て、多くの「帰宅困難者」が発生しました。日暮里舎人ライナーでは脱線事故が発生し、無人運転の交通インフラの災害対応における弱点も露呈しました。そして首都圏では、各地で水道管が破裂するなど、私たちの生活に直結するライフラインにも影響が出たことで、改めて首都圏（人口密集地帯）の自然災害に対する脆弱性が浮き彫りになりました。



また、10月10日に発生した蕨交流変電所の火災事故では、山手線や京浜東北線を含む9路線が最大7時間運転を見合わせ、23万6千人の利用者に影響を与える大規模輸送障害となりました。今回の火災事故の原因はまだ特定されていませんが、蕨交流変電所では2017年9月、作業員の「機器操作ミス」で停電が発生し、山手線など7路線が最大40分運転を見合わせるトラブルが起きています。会社は「原因を究明し再発防止に努める」としていますが、同変電所で同様な停電事故が繰り返し発生して

利用者に多大な迷惑をおかけしていることは、鉄道事業に従事する者として看過できない事態であり、具体的な再発防止策を労使で真摯に議論しなければなりません。

自然災害や想定外の事故は、あらゆる科学の力を駆使したとしても「いつ・どこで・どんな事態が起こるか」を事前に特定することは困難です。しかし、過去の災害や事故を教訓にして、「防災・減災」の視点から、万が一発生した場合に、最悪の状況を想定した対応や影響を最小限に食い止めるための準備をすることはできます。

私たちは、2011年の東日本大震災で甚大な被害を受けたことや、日本鉄道史の中で繰り返し発生した重大事故を知っている「生き証人」です。今回の地震や火災事故を「他山の石」として、「防災・減災」の視点から問題点を明らかにして、教訓を活かした具体的な対応策や提言をおこなっていく必要があります。輸送サービスに従事する仲間は、自然災害や事故と常に「隣り合わせ」です。だからこそ、私たちの力を合わせて、職場から安全・安心な輸送サービスをつくり出すために職場から議論を巻き起こそう！